

記者発表資料

平成22年6月7日(月)

(担当) 経済局産業創出部産学連携推進課

(内線) 700-3746

(直通) 214-8245

マイクロナノ技術による産学連携の新展開について

～ MEMS技術などのマイクロナノ分野の支援体制によるキックオフミーティング開催 ～

仙台市は、MEMSに代表されるマイクロナノ技術を活用した産学連携の支援体制を強化します。

東北大学やドイツのフラウンホーファー研究機構等の研究機関と、地域企業との連携を促進するコーディネーター等を従来の2名から、新たに就任する外国人研究者を含む4名に拡大します。

このような支援体制の強化、及び東北大学のマイクロナノ研究拠点である μ SIC(※)の稼動との連動等により、MEMS等マイクロナノ技術を活用した地域産業振興・新産業の創出を行ってまいります。

また、新体制の立ち上げに伴い、平成22年6月9日(水)に、下記のとおりキックオフミーティングを開催します。

(※) μ SIC(東北大学・マイクロシステム融合研究開発センター)

平成22年3月に、東北大学に設立された日本を代表するマイクロナノ研究開発の拠点。研究開発に取り組む企業等へ開放し、大学研究者と企業が共同でMEMS等の試作を行う試作コインランドリ(西澤潤一記念研究センター内)の運営等を行う。



MEMS試作開発研究拠点(西澤潤一記念研究センター)

記

- (1) 日時: 6月9日(水) 16:00~17:00
 - (2) 場所: 仙台市役所本庁舎 3F 秘書課第一応接室
 - (3) 出席者: 伊藤敬幹 仙台市副市長
江刺正喜 東北大学原子分子材料科学高等研究機構教授
 - (4) 就任者: 戸津健太郎 東北大学マイクロシステム融合研究開発センター准教授
大高剛一 株式会社リコー研究開発本部東北研究所主幹研究員
竹村正博 浜松ホトニクス株式会社東京支店仙台営業所所長【新任】
林育菁 東北大学原子分子材料科学高等研究機構助教【新任】
- 【資料2参照】
- (5) 内容
 - 1) 就任者の紹介
 - 2) 辞令等交付
 - 3) マイクロナノ技術における仙台地域の産業振興・新産業創出の取組みについて(プレゼンテーション)
 - 4) 意見交換
 - 5) その他

仙台地域におけるマイクロナノ分野の応用研究等の支援体制について

(1) MEMSパークコンソーシアムについて



平成16年10月に仙台市、宮城県、東北経済産業局、東北大学等がMEMS PARK CONSORTIUMを発起人となって設立された会員制の産学連携組織。東北大学原子分子材料科学高等研究機構 江刺正喜教授が代表を務め、MEMS技術の産業化を進めることを目的としている。MEMS技術に関する情報発信、人材育成、交流事業等を展開しており、約80社の企業が会員として本コンソーシアムに入会している。

(2) MEMS開発ディレクター事業

平成19年度より、仙台市の非常勤職員の肩書きを持つMEMS技術者が地域企業に対し、MEMS等のマイクロナノ技術の技術的な支援を行う事業を開始。

これまでに地域の中小企業20数社を訪問し、地域企業のMEMSを用いた光干渉型の振動センサ等の開発を支援したり、欧米の研究機構等と地域企業とのマッチング支援などの活動を行ってきたところである。また、平成21年度においては、MEMSパークコンソーシアムの人材育成事業に連動し、地域の高校生にMEMS技術を活用した試作実習など次世代人材育成の裾野を広げる活動を行い、支持を得られている。

今回新たに、地域企業に幅広い人脈を持つ竹村氏が「MEMS開発アシスタントディレクター」として加わることにより、より一層、企業ニーズに即した支援を行うことができる。

(3) 仙台市とフラウンホーファー研究機構との協力協定について



仙台市とフラウンホーファー研究機構は、両者の学術・産業研究を促進することを目的として平成17年7月に協力協定を締結。東北大学における基礎研究機能、フラウンホーファー研究機構の応用研究機能を有機的に繋げることにより、MEMS技術等の産業化を促進し、当地域における産業振興・新産業の創出に資することを目標としている。平成17年からの5年間で仙台市と同研究機構との協力関係は強固になったところ、より一層地域産業との接点を拡大するため、同研究所とも関係が深い林育菁氏が仙台市の「MEMSマッチングサポーター」として就任することとなったもの。

就任者の略歴について

(1) 「MEMS 開発ディレクター」【非常勤嘱託職員】として

○戸津健太郎（とつけんたろう）

東北大学 マイクロシステム融合研究開発センター 准教授

平成 16 年東北大学大学院工学研究科博士課程を修了。同年 4 月より東北大学大学院工学研究科ナノメカニクス専攻助手として MEMS、マイクロマシニングの研究開発に従事。平成 19 年度より東北大学産学連携推進本部助教。平成 21 年度より東北大学マイクロシステム融合研究開発センター准教授。現在、試作コインランドリの推進、マイクロシステムに関する研究開発に従事。



(2) 「MEMS 開発アシスタントディレクター」【非常勤嘱託職員】として

○大高剛一（おおたかこういち）

株式会社リコー 研究開発本部 東北研究所 主幹研究員

昭和 54 年東北大学大学院工学研究科修士課程を修了。同年東北リコー（株）入社。昭和 63 年にリコー応用電子研究所（株）へ転籍。平成 5 年（株）リコーへ転籍。センサー、光スキャナ等 MEMS デバイスの研究開発に従事し現在、（株）リコー研究開発本部東北研究所勤務。



○竹村正博（たけむらまさひろ）

浜松ホトニクス株式会社 東京支店 仙台営業所 所長

昭和 48 年東北大学大学院工学研究科修士課程を修了。同年日本電気（株）入社。昭和 56 年に仙台に戻り、地元中小企業での営業・経営活動に従事した後、平成元年に浜松ホトニクス（株）入社。平成 2 年同社仙台営業所を開設。現在、同営業所にて光技術関連製品の営業活動に従事。また、みやぎ工業会技術情報委員会にて、県内会員企業への先端技術の紹介、企業見学会の企画運営、取材訪問記による会員を紹介。



(3) 「MEMS マッチングサポーター」【委嘱委員】として

○林育菁（りんいくせい）

東北大学 原子分子材料科学高等研究機構 助教

平成 18 年東北大学大学院工学研究科博士課程を修了。同年 4 月より東北大学大学院工学研究科バイオロボティクス助手。平成 19 年度よりフラウンホーファー研究機構研究員。平成 20 年度より東北大学原子分子材料科学高等研究機構助教。



仙台市におけるマイクロナノ技術支援体制について

MEMS技術に代表されるマイクロナノ技術の仙台地域における拠点性を活かし、地域企業との連携を促進するコーディネーターをこれまでの2名体制から4名体制に倍増する。これにより、仙台地域におけるマイクロナノ技術による地域産業振興や新産業創出の取り組みを強化する。

【支援体制】

MEMS開発ディレクター(市非常勤嘱託)
 東北大学マイクロシステム融合研究開発センター
 准教授 戸津健太郎

MEMS開発アシスタントディレクター(市非常勤嘱託)
 (株)リコー研究開発本部
 東北研究所 大高剛一

新任 MEMS開発アシスタントディレクター(市非常勤嘱託)
 浜松ホトニクス株式会社
 東京支店仙台営業所所長
 竹村正博

新任 MEMSマッチングサポーター(委嘱委員)
 東北大学原子分子材料科学
 高等研究機構助教 林育菁

技術支援、ビジネス
 マッチング等により
 産学連携を促進

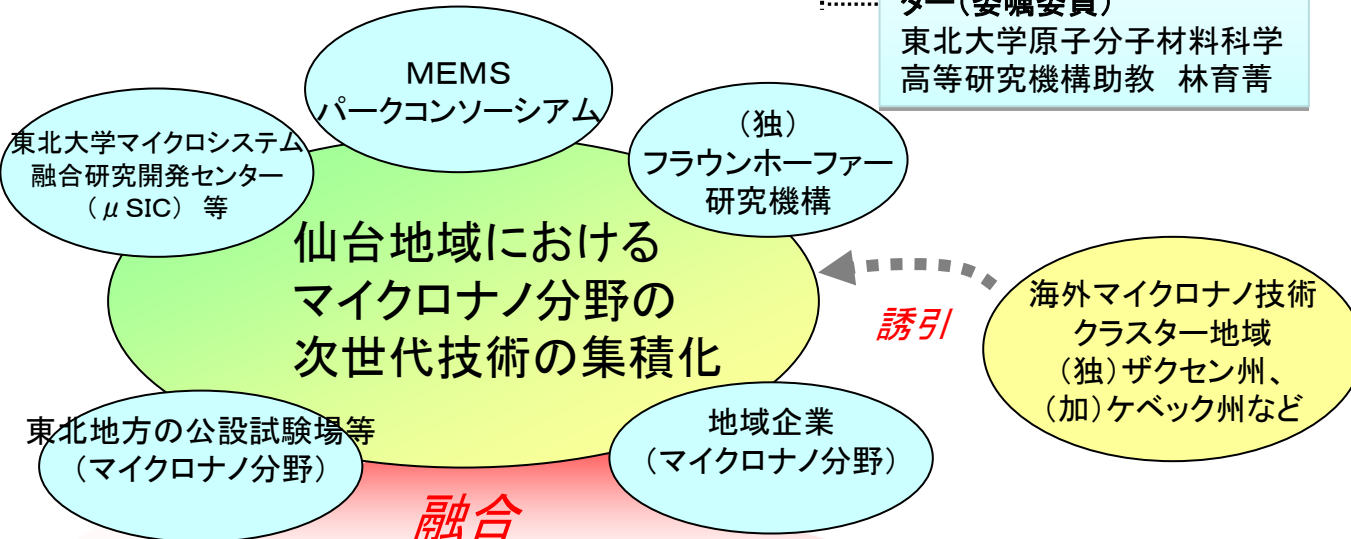
【マイクロナノ関連の市施策】

MEMSパークコンソーシアムの運営支援(情報発信、人材育成、ネットワークなど)

ものづくり試作実証補助
 (マイクロナノ分野における試作開発費の支援)

(独)フラウンホーファー研究機構との連携事業
 ・シンポジウム開催(1回/年)
 ・セミナー開催(数回/年)
 ・(地域企業との)技術マッチング支援
 ・共同ショールーム運営 など

地域企業活性化事業
 (マイクロナノ分野の地域企業間ネットワーク促進)



融合